

認知症のご相談はお任せ！

京都市認知症疾患医療センター！

発行：京都市保健福祉局健康長寿のまち・京都推進室健康長寿企画課
電話：075（746）7734



平成31年1月

推進員活動ニュースのvol.1で、認知症疾患医療センターを取り上げました。あれから5年、平成30年9月、京都市では北山病院を認知症疾患医療センターに指定しましたので、今回は京都市認知症疾患医療センターについてご紹介します！

認知症疾患医療センターとは？

認知症疾患の保健医療推進の向上を図ることを目的とする専門医療機関です。地域医療・介護機関等と連携を図りながら、認知症の鑑別診断、周辺症状と身体合併症に対する急性期治療、専門医療相談を実施するとともに、地域の保健医療・介護関係者とのネットワークを構築しています。

(HP「きょうと認知症あんしんナビ」より)



京都市認知症疾患医療センターはこちら！

指定医療機関：医療法人三幸会 北山病院

類型：地域型

※地域型は、認知症の専門医療相談及び認知症医療に関する地域連携の中核となる医療機関のことです。

対象エリア：京都市域

電話番号：706-5515

開所時間：平日9時～17時（土日祝・年末年始除く）

住所：京都都市左京区岩倉上蔵町123番地

北山病院は、精神科発祥の地・岩倉で、その歴史を伝えながら、思春期から認知症疾患まで、ひとりひとりにあった治療や診療が大切だという考え方を基本に、スタッフの連携を密にしたチーム医療に取り組んでいます。
(医療法人三幸会パンフレットより)



京都市認知症疾患医療センターの体制についてご紹介します

北山病院では、認知症疾患医療センターをチームで運営しています。メンバーは、院長であり、認知症専門医でもある澤田医師、認知症ケア専門士の資格を持つ坂井看護師、相談員の井上さんです。

電話での相談の場合は、精神保健福祉士の資格を持つ井上さんが主に相談対応をされますが、来院された場合は、内容により坂井看護師も一緒に相談対応をされます。診療対象の相談は澤田医師に報告し、チームで協議しながら対応方針を決めています。ご本人からの相談はもちろん、ご家族等の介護者のみで相談することも可能です。



私たちがセンターを運営しています。

左：井上さん 中央：澤田医師 右：坂井看護師



裏面では、相談員の井上さんに京都市認知症疾患医療センターの相談状況や相談対応についてお伺いしました。認知症疾患医療センターには様々な機能がありますが、主に専門医療相談について教えていただきましたので、専門職の皆さんが市民の方を京都市認知症疾患医療センターへつなぐときの参考にさせていただきたいと思います。





どれくらい相談が来ていますか？

9月は37件、10月は51件、11月は111件、12月は73件です。

市民しんぶん、京都市認知症疾患医療センターの記事が掲載されたためか、最近は毎日2～3件程度の相談があります。9月・10月の相談は、ご家族等の介護者からが最も多く、医療機関、介護保険事業所の順に多いです。その他、行政や高齢サポート、もちろん認知症のご本人からの相談もあります。高齢サポートや認知症初期集中支援チームからの相談は必ず澤田医師に相談しています。認知症疾患医療センターの指定を受けてからは認知症の初期段階での相談が多くなったと感じています。



認知症疾患医療センターの受診の流れについて教えてください。

受診までの待ち時間に問診票の記入をお願いしています。外来受診時には、心理検査（長谷川式認知症スケールや、MMSE）や鑑別診断のためのCT検査を行います。診察、心理検査、CT検査等事前の予約があれば、およそ1～2時間程度で終わり、それほど時間はかかりません。これらの検査結果を経て、必要に応じて井上さんが相談に対応します。場合によっては介護保険制度を紹介したり、ケアマネジャーに連絡したりしますよ。



これまで印象に残った事例について教えてください。

70代の男性で、一人暮らしのAさんです。ADLは自立していましたが、中等度の認知症があり、生活は破綻していました。一人で外出して帰ることができなくなり、山の中で倒れているところを発見されて入院するものの、飼い犬を理由にすぐに退院し、また外出して帰れなくなってしまう方でした。高齢サポートや地域ネットワークの力を借り、再度発見されたときに入院してもらいましたが、ここまで認知症の症状が進む前の初期の段階から公共料金が払えない、行政手続等複雑な手続きができないなどの困りごとがあったはず。早くに周囲が気付いたり、受診を行えたりしていれば対応方法の選択肢が広がったのではないかと思います。

他にも警察やご家族と協力して認知症の方の自動車免許を返納した事例や、かかりつけ医からの紹介で受診・鑑別診断をした後にケアマネジャーとも連携しながらBPSDの対応方法についてご家族に助言をした事例が印象に残っています。

井上さんからメッセージ

北山病院は精神科の病院のため、受診や病院との連携のハードルが高いと思われるかもしれませんが、そのために相談員がいます。「認知症だと思うけど、受診のために北山病院に行くのが難しい…」という相談にも、一緒に考えていきたいと思っています。早めに相談することで、その人の望む暮らしを長く続けられます。ぜひご相談ください！



井上さん

PR！京都市の職員の中にも認知症サポーターが増えています！

平成30年度は、健康長寿企画課の認知症地域支援推進員がキャラバンメイトとして活動し、交通局高速鉄道部、税務部税制課、深草支所、健康長寿企画課の職員向けに認知症サポーター養成講座を実施しました。特に交通局高速鉄道部では、高齢サポートや作業療法士の皆様など、多くの方と協力して認知症サポーター養成講座を行いました。オレンジリングを持った職員が増え、関係機関と連携が図れるよう、認知症地域支援推進員も活動してまいります。

